

2025 年度 各授業学習目標・授業目標 科目名：2 年探究 教育

高等部教育目標	
イエス・キリストを通して、人と世界に仕える使命感と実力を養い、豊かな心と真摯な態度を備えた人格を培う	
探究型カリキュラム教育/学習目標	
Mastery for Service を体現する世界市民の一員として、国内外の社会に自ら関わり貢献できる力を育成する/身につける	
探究型カリキュラムにおける 5 つの学びの方針 Five Principles for Learning	
1. 自分事として <オーナーシップ/一人称>	2. 社会/実践を通して <PBL 型/アクション>
3. 知識を大事に <自ら得る知識/高める関心>	4. コミュニケーションを通して <自分/他者のやりとり>
5. 生徒・教員が共に <共に探究する関係性>	
上位学習目標	
<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分が関心のある教育の課題について、自分の言葉で説明することができる 先行研究、先行事例の分析を踏まえて、フィールドワークを実施して調査することができる <p>【思考力・判断力・表現力】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分が関心のある教育に関する課題について他者に自らの意見を伝える事ができる 自分が関心のある教育に関する課題について調べ、その解決方法を考案することができる <p>【学びに向かう力・人間性】</p> <ul style="list-style-type: none"> 主体性をもって、粘り強く学習課題に取り組もうとしている。 教育に関する課題を自分事とし、その課題解決を通じて社会に参画・貢献しようとしている。 	
下位学習目標	
<p>【知識・技能】</p> <ol style="list-style-type: none"> 自分が関心のある教育の課題について、独自性のあるリサーチクエストを設定することができる 教育の課題解決に取り組んでいる団体、研究者を訪れてフィールドワークを実施することができる データや資料を適切に使って、効果的なプレゼンテーションを行うことができる <p>【思考力・判断力・表現力】</p> <ol style="list-style-type: none"> 教育に関する社会課題について、他者に自らの意見を伝えることができる 教育に関する社会課題について調べ、その解決方法を提示することができる <p>【学びに向かう力・人間性】</p> <ol style="list-style-type: none"> 教育に関する社会課題の中から、自分自身がより理解を深め、課題解決をしたいと思うことができるものを見つけようとしている 教育に関する社会課題と向き合う中で、その課題に取り組むことの意義を自分のあり方・生き方と関連付けようとしている 	

< 1 学期 >

授業日	4/15(火)	1 学期授業回数	1 回目 / 全 9 回
本時 学習目標	主なターゲット【知識・技能】 【思考力・判断力・表現力】 【学びに向かう力・人間性】 本時の具体的な目標 ・なぜ探究学習を行うかを考える。 ・問いの「観点」と「規模」を変えてよりよい問いを作ることができる。		
時間 授業内容	5 限 6 限 (0~35 分) (30~37 分) (37~42 分) (42~45 分)	合同オリエンテーション (西室先生) 探究学習 (水平的学習) を通して大学、社会、人生につながる学びをする。 問いづくりとして以下の 2 点を意識して問いづくりをする。 ①問いの観点を変える。 具体例：疑問詞「なぜ？」・「もし～？」「どのように？」を変える。 ②問いの規模を変える。 具体例：問いの主語を変えたり限定したりする。修飾語を変える。 WORK ① 「ICT の進化は高校生の学習にどのような影響を与えたか？」という問いの観点や規模を変える。 →グループ内でメンバーの考えた問いを共有する。 WORK ② ベネッセ「大学生の学習・生活実態調査」の 8 つアンケート結果 (単位は生徒の興味関心で取得すべきか否か、大学での学習は授業形式をとるべきか否かなど) をみて、そこから自分なりの問いをつくる。	
評価方法	本授業のオリエンテーションのため、評価なし。		
宿題指示	ベネッセ「だい大学生の学習・生活実態調査」の結果から 5 つの問いを作る。		

授業日	4/22(火)	1 学期授業回数	2 回目 / 全 9 回
本時 学習目標	主なターゲット【知識・技能】 【思考力・判断力・表現力】 【学びに向かう力・人間性】 本時の具体的な目標 ・「教育」探究の課題設定をする上で、ある程度の知識が必要であるため、関西学院大学教育学部教育学研究科の泉恵美子先生をお招きして、教育基本法や学校教育法などの学校教育制度の根幹の定めに関する日本の法律を学び、VUCA、デジタル時代に求められる資質・能力を英語教育学から考える。また、未来の教育を考え、自分の興味・関心に沿った問いを立てられるようにする。		
時間 授業内容	(0~35 分)	〈第 1 部〉 ①教育とは何か？→教育とは「人が人を育てる営み」であり、教育を学ぶことで、自分の学びや他社との関わりを見直す視点が得られる。 教育基本法は「どんな人間を育てるか」という国家の教育理念を示しており、目的は「人格の完成」、目標は「社会の中で主体的に生き、他者と協働できる力を育むこと」にある。 ②教育学とは？→教育に関する営みを多角的に分析し、問い直す学問。主な分野に教育哲学、教育史、教育心理学、教育社会学がある。 ③世界の教育の比較 例：日本は、義務教育 9 年 (小中) 高校・大学進学率が高い。教育観は協調・礼儀・均一性を重視	

	(35~45 分)	<p>する。主な課題に詰め込み型が残る傾向、自己肯定感が低い。</p> <p>アメリカは、教育制度は義務教育9年+高校・大学。教育観は多様性を尊重、自己表現批判的思考を重視する。主な課題に教育格差が大きく、学費の高い。</p> <p>④あなたの理想の学校を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あなたの学校理念や目標は？どんな生徒を育てたい？ ・どんな授業・学び方がある？テストや評価は？ ・校則はある？どんなルール？ ・先生と生徒の関係は？その学校のユニークな特徴は？ <p>→上記の質問の自分なりの答えを書きだし、グループ内で共有する。</p>
	(45~90 分)	<p>〈第2部〉</p> <p>①VUCA、デジタル時代に求められる資質・能力とは？</p> <p>21世紀型能力とOECDのEducation2030、Well-beingとagency、学習指導要領で求める力、GIGAスクール構想で一人一台端末、個別最適な学びと協働的な学びを考える。</p> <p>②やる気と自己肯定感、自律（汎用的なスキル）の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・非認知能力とは何か？→「新たな価値を創造する力」「対立やジレンマに対処する力」「責任ある行動をとる力」。また、批判的思考力や創造性を持ち、協働して学習に取り組むなど。 ・「学びに向かう力」「主体的に学習に取り組む態度」に関する理論 <p>→ARCS（注意・関連性・自信・満足感）動機づけモデル、内発的動機と自己決定理論などの提示</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己調整学習の3段階 <p>→予見段階、遂行統制段階、自己内省段階</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自律的な学びを育てるSocial Emotional Learning <p>→社会性と情動の学習(CASEL)</p>
評価方法	宿題の文章内容から評価する	
宿題指示	Classiで200字の授業の感想を書くこと	

授業日	4/30(木)	1学期授業回数	3回目 / 全9回
本時	主なターゲット【知識・技能】 【思考力・判断力・表現力】 【学びに向かう力・人間性】		
学習目標	<p>本時の具体的な目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会課題1（高校での文理選択は早すぎるか？）について、情報を収集し、事実・データと論拠を整理することができる。 		
時間	5限		
授業内容	0~5分	<ul style="list-style-type: none"> ・2回目（泉先生の特別授業）の振り返り 宿題（Classiで200字の授業感想）を全員分読み、各班ごとに1人30秒間の意見交換 	
	5~12分	<ul style="list-style-type: none"> ・The 7Csの話 批判的思考力、創造性、協働性、メディアの使用能力、PCやICTのリテラシー、異文化理解 見通しをもってキャリア形成をしていく能力 	
	12~38分	<ul style="list-style-type: none"> ・グループワーク ①1回目の宿題で立てた問いを他者が問いの観点や規模を変えてもらい、さらにその変えてもらった問いを再度自分なりに変えてよい問いを作る。 	
	38~45分	<ul style="list-style-type: none"> ②教員がランダムで生徒を当て、①の活動で問いがどう変化したのかを共有する。 	

	6限 0~30分 30~45分	<p>文理選択をめぐる対話型論証</p> <p>資料 A (分離訳に関する日本と海外の比較)、資料 B (文系的、理系的素養の重要性) を読んで、自分の賛否の事実・データを拾い上げる。</p> <p>その事実・データに論拠・理由付けをする。</p> <p>例：反対：日本では、大学受験の時に文系、理系というアイデンティティをもってしまう。 →論拠：大学入試が自己のイメージに縛られてしまうから。</p> <p>文理選択 (逆意見) をめぐる対話型論証</p> <p>資料 C (高校生の文理・学科選択に影響を及ぼす要因の分析) を読んで、逆意見の事実・データの収集と論拠・理由づけを行う。</p> <p>例：賛成：成績が良い科目で文理を選んでいる。 →論拠：特異な科目をより深めたり伸ばしたりできる。</p>
評価方法	事実・データに対する論拠の妥当性	
宿題指示	なし	

授業日	5/27(火)	1 学期授業回数	5 回目 / 全 9 回
本時 学習目標	<p>主なターゲット【知識・技能】 【思考力・判断力・表現力】 【学びに向かう力・人間性】</p> <p>本時の具体的な目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会課題 1 (高校での文理選択は早すぎるか?) について、多角的に試行し、主張をまとめることができる。 		
時間 授業内容	5限 0~5分	<ul style="list-style-type: none"> ・前回までの振り返り 資料 C (高校生の文理・学科選択に影響を及ぼす要因の分析) を読んで、事実・データの収集と論拠・理由付けを行う。 	
	5~10分	<ul style="list-style-type: none"> ・資料 D (大学入学後の文理の枠を超えた学びについて) を生徒が音読をして、三角ロジックを考える。 	
	10~15分	<ul style="list-style-type: none"> ・資料 D の事実・データの収集と論拠・理由付けを行う。 	
	15~22分	<ul style="list-style-type: none"> ・グループワークで資料 D の内容を発表する。 (ex.学問分野でそれぞれの特色があるから、早々と文理選択をする事に反対) 	
	22~45分	<ul style="list-style-type: none"> ・トミダススクールの使い方と文理選択の時期が妥当かどうかを高校生 2 人 (賛成意見と反対意見の両方) の記事を読み、事実データの収集と論拠、理由づけを行う。 	
	6限 0~5分	<ul style="list-style-type: none"> ・質的データと量的データの説明 質的データ：種類の違いや属性を表すデータ 量的データ：数量の大きさを表すデータ 	
	5~15分	<ul style="list-style-type: none"> ・CINI と GoogleSholor での使用方法の説明 	
	15~40分	<ul style="list-style-type: none"> ・CINI と GoogleSholor を使って、社会課題 1 (高校での文理選択は早すぎるか?) の適切かどうかの事実データとなる資料を検索して収集して論拠、理由づけを行う。 	
	40~45分	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の主張に対する事実データとなる資料を検索して収集して論拠、理由づけを全員で共有する。 	

評価方法	事実・データに対する論拠の妥当性
宿題指示	特になし

授業日	6/3(火)	1 学期授業回数	6 回目 / 全 9 回
本時 学習目標	主なターゲット【知識・技能】 【思考力・判断力・表現力】 【学びに向かう力・人間性】 本時の具体的な目標 ・教育に関する社会課題に対する多様な主張とその根拠を整理することができる。		
時間 授業内容	5 限目 0~16 分 16~26 分 26~36 分 36~45 分 6 限目	本柳とみこさんの新聞記事「クラスの役割 海外の学校では？」を音読して、自分の意見と文章から問いを立てる。 班ごとに、自分の意見と考えた問いを共有する。 教科書「日本の教育はダメじゃない」の通説 1 ~ 1 4 を読んでみて、1 番興味のある通説を選択する。 対話型論証モデル、情報記録カード（先行研究から得た事実・データと対立する主張・異なる主張に関する事実データ）の説明 生徒が選択した通説ごとに分かれて班をつくり、通説を分担して読み込む。そして 1 つの対話型論証モデルのパワーポイントを共有して主張と対立する主張の両側の事実・データ、論拠・理由付け、反駁、結論・提言を考える。	
評価方法	先行研究の分析の妥当性		
宿題指示	各通説の対話型論証モデルのパワーポイントのスライド		

授業日	6/10(火)	1 学期授業回数	7 回目 / 全 9 回
本時 学習目標	主なターゲット【知識・技能】 【思考力・判断力・表現力】 【学びに向かう力・人間性】 本時の具体的な目標 ・「学力は本当に低いのか」というテーマに対する 14 個ある通説の中から選択した通説を読み、先行研究の情報を整理・分析したうえで、インタビュー調査の項目を決めることができる。		
時間 授業内容	5 限目 0~8 分 8~45 分 6 限目 0~45 分	「暴れる自動、教室に設置されたカメラ」という題の朝日新聞の記事を音読して、賛成か反対かを選択して三角ロジックに会わせて事実・データ、論拠を考える。その後、グループワークをして考えの共有をする。 前回の授業で通説の情報を対話型論証モデルのまとめたので、その補足としてそれぞれの主張の他の先行研究を調査して情報カードに書いていく。 質的調査の手法を学び、各班でインタビューガイドを作成する。 （直接的・間接的な質問、異なる視点からの質問、核となる質問）	
評価方法	インタビューをする際の質問内容の的確性		
宿題指示	インタビューガイド		

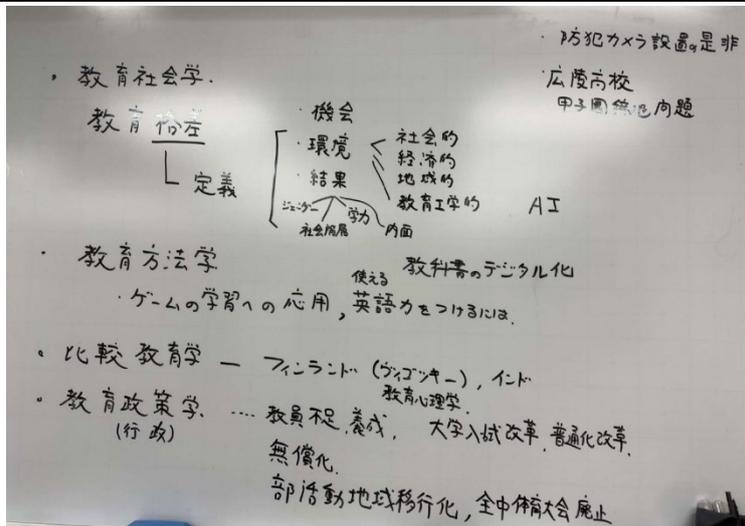
授業日	6/17(火)	1 学期授業回数	8 回目 / 全 9 回
本時 学習目標	主なターゲット【知識・技能】 【思考力・判断力・表現力】 【学びに向かう力・人間性】 本時の具体的な目標 ・「学力は本当に低いのか」というテーマに対する 14 個ある通説の中から選択した通説を選択して、インタビューに適切に質問し、情報をさらに深掘りすることができる。		
時間 授業内容	5 限目 0~35 分	・担当する通説における主張(claim)、事実・データ(date)、論拠(warrant)を対話型論証モデルに沿って説明する。 ・質疑応答を行う。	
	8~45 分	・インタビューガイドを完成させる。	
	6 限目 0~40 分	「日本の教育はダメじゃない」の著者である小松光さんにインタビューをする。	
	40~45 分	今日の授業（インタビュー）で印象に残ったこと、考えたことをまとめる。	
評価方法	インタビューをする際の質問内容の的確性		
宿題指示	今日のインタビューで印象に残ったこと、考えたことをロイロノートに提出 （※当事者・関係者の方の生の声を聴いて、リサーチクエスト（探究上の問い）に関して、どのように考えが深まったかを中心に書くこと。）		

授業日	6/24(火)	1 学期授業回数	9 回目 / 全 9 回
本時 学習目標	主なターゲット【知識・技能】 【思考力・判断力・表現力】 【学びに向かう力・人間性】 本時の具体的な目標 ・「学力は本当に低いのか」というテーマに対する 14 個ある通説の中から選択した通説で、多様な主張とその根拠を整理することができる。		
時間 授業内容	5 限目 0~30 分	・「朝日新聞」のいまだきの運動会という記事を読んで、小学校の運動会の徒競走に順位が必要か否かというお題で主張(claim)、事実・データ(date)、論拠(warrant)を対話型論証モデルに沿って考える。その後、グループワークを行ってクラス全体で考えの共有を行う。	
	30~45 分	・「日本の教育はダメじゃない」の著者である小松光さんにインタビューした内容と自分たちの主張と対立する主張の事実・データを「Google Scholar」と「CINI」を利用して調べて論拠・理由づけを考えて対話型論証モデルに追記する。	
	6 限目 0~25 分	完成した対話型論証モデルを班ごとに発表する。	
	25~45 分	完成した対話型論証モデルを班ごとに発表する。	
評価方法	対立する主張の情報収集の適切さ		
宿題指示	教育に関連する、興味・関心がある話題を、ロイロカードにまとめ、提出する。 ※必ず出典を記すこと。（参考文献の書き方はテキスト P 133 を参照すること）		

<2学期>

授業日	9/9(火)	2学期授業回数	1回目 / 全9回																												
本時 学習目標	主なターゲット【知識・技能】 【思考力・判断力・表現力】 【学びに向かう力・人間性】 本時の具体的な目標 ・夏休みに調べた興味・関心がある課題について発表できる。 ・探究していく課題（リサーチプロブレム）を決めることができる。																														
時間 授業内容	5限目 0～5分	・2学期の探究の進め方の確認をする。夏休みに調べた興味・関心がある課題について発表方法の説明をする。																													
	5～45分	・3分間で生徒が作成したロイロカードを使って、発表をする。																													
	6限目 0～40分	・3分間で生徒が作成したロイロカードを使って、発表をする。																													
	45～45分	・教員が発表の講評をする。発表で出てきたキーワードのグルーピングとキーワードの説明をする																													
評価方法	2025年度9/9(火)夏休みの課題発表 ルーブリック（口頭発表の評価規準） <table style="width:100%; border:none;"> <tr> <td style="width:50%;"></td> <td style="text-align:right;">合計</td> </tr> <tr> <td>評価対象者（ 評価者（</td> <td style="text-align:right;">） ）</td> </tr> <tr> <td colspan="2"> 観点1 教育に関する「課題」についての説明の明確さ </td> </tr> <tr> <td>2 教育に関する社会の「課題」についての説明が、たいへん明確である</td> <td style="text-align:right;">評価</td> </tr> <tr> <td>1 教育に関する社会の「課題」についての説明が、理解できる</td> <td style="text-align:right;">評価</td> </tr> <tr> <td>0 教育に関する社会の「課題」についての説明が、不十分である</td> <td style="text-align:right;">評価</td> </tr> <tr> <td colspan="2"> 観点2 発表の内容のインパクト </td> </tr> <tr> <td>2 発表内容について、「おっ」「すごい」「そうなんだ」と聴衆に思わせるインパクトに溢れている</td> <td style="text-align:right;">評価</td> </tr> <tr> <td>1 発表内容について、「おっ」「すごい」「そうなんだ」と聴衆に思わせるインパクトが少しある</td> <td style="text-align:right;">評価</td> </tr> <tr> <td>0 発表内容について、インパクトが感じられない</td> <td style="text-align:right;">評価</td> </tr> <tr> <td colspan="2"> 観点3 参考文献・出典を明示している </td> </tr> <tr> <td>2 参考文献・出典が研究に求められる形で明示されている(テキストP133)</td> <td style="text-align:right;">評価</td> </tr> <tr> <td>1 参考文献・出典の明示に一部不十分なところがある</td> <td style="text-align:right;">評価</td> </tr> <tr> <td>0 参考文献が示されていない</td> <td style="text-align:right;">評価</td> </tr> </table>				合計	評価対象者（ 評価者（	） ）	観点1 教育に関する「課題」についての説明の明確さ		2 教育に関する社会の「課題」についての説明が、たいへん明確である	評価	1 教育に関する社会の「課題」についての説明が、理解できる	評価	0 教育に関する社会の「課題」についての説明が、不十分である	評価	観点2 発表の内容のインパクト		2 発表内容について、「おっ」「すごい」「そうなんだ」と聴衆に思わせるインパクトに溢れている	評価	1 発表内容について、「おっ」「すごい」「そうなんだ」と聴衆に思わせるインパクトが少しある	評価	0 発表内容について、インパクトが感じられない	評価	観点3 参考文献・出典を明示している		2 参考文献・出典が研究に求められる形で明示されている(テキストP133)	評価	1 参考文献・出典の明示に一部不十分なところがある	評価	0 参考文献が示されていない	評価
	合計																														
評価対象者（ 評価者（	） ）																														
観点1 教育に関する「課題」についての説明の明確さ																															
2 教育に関する社会の「課題」についての説明が、たいへん明確である	評価																														
1 教育に関する社会の「課題」についての説明が、理解できる	評価																														
0 教育に関する社会の「課題」についての説明が、不十分である	評価																														
観点2 発表の内容のインパクト																															
2 発表内容について、「おっ」「すごい」「そうなんだ」と聴衆に思わせるインパクトに溢れている	評価																														
1 発表内容について、「おっ」「すごい」「そうなんだ」と聴衆に思わせるインパクトが少しある	評価																														
0 発表内容について、インパクトが感じられない	評価																														
観点3 参考文献・出典を明示している																															
2 参考文献・出典が研究に求められる形で明示されている(テキストP133)	評価																														
1 参考文献・出典の明示に一部不十分なところがある	評価																														
0 参考文献が示されていない	評価																														
宿題指示	特になし																														

授業日	9/16(火)	2学期授業回数	2回目 / 全9回
本時 学習目標	主なターゲット【知識・技能】 【思考力・判断力・表現力】 【学びに向かう力・人間性】 本時の具体的な目標 ・教育に関する課題から問い（リサーチクエスト）を設定することができる。		
時間 授業内容	5限目 0～20分	・前回の授業で、夏休みに調べた興味・関心がある課題について発表した。その内容（写真1）を元にグルーピングをする。 1班：部活（体罰、地域移行） 2班：教育法、教育制度 3班：教育方法学（デジタル化） 4班：教育方法学（AI） 5班：社会教育学（教育格差） 6班：教育政策・教育行政・教育制度	



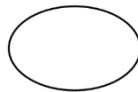
(写真1)

20~45分

・課題・問いを設定する。(課題とは、疑問だ、解決すべきだ、知りたいと思う問題の領域や具体的な事柄。問い：課題の粒度を小さくした問い。その中で探究(研究)上の問いをリサーチエスチョンという。)リサーチプロブレムの中にリサーチエスチョンが存在する。『対話型論証ですめる探究ワーク』P.119

・生徒ごとに課題設定のアイデアマップ(写真2)を作成する。

【個人ワーク用】課題の設定 アイデアマップ 名前()



リサーチプロブレム:

(写真2)

6限目
0~45分

・課題設定のアイデアマップを班ごとに共有する。共有したのち、班ごとのリサーチプロブレムを設定して問いを立て、それに対しての仮説を立てる。

(この際、ポストイットを使用して、青付箋に問い、赤付箋に仮説を書き、共通のアイデアマップに貼っていく)

評価方法 適切な問いを設定し、それに仮説を立てることができる。

宿題指示 なし

授業日	9/25(木)	2学期授業回数	3回目 / 全9回
本時	主なターゲット【知識・技能】 【思考力・判断力・表現力】 【学びに向かう力・人間性】		

学習目標	本時の具体的な目標 ・問い（リサーチエスチョン）について、既に明らかになっていることを明確にできる。	
時間 授業内容	5・6 限目	<ul style="list-style-type: none"> ・先行研究（論文や文献等）や資料を調べ、情報をおおまかに収集する。その際、有益な事実・データが見つければ今後のためにメモを取っておく。 ・収集した情報をもとに、自分たちの問いについて、仮説が検証できそうか（遠すぎる問いになっていないか）、新規性が出せそうか（すでに明らかになっていることの調べ学習にならないか）、そもそも探究しがいがある問い化などを話し合う。 ※本授業では、メンターの大学生が3人参加してもらった。
評価方法	適切な問いを設定し、それに仮説を立てることができる。	
宿題指示	なし	

授業日	9/30(火)	2 学期授業回数	4 回目 / 全 9 回
本時 学習目標	主なターゲット【知識・技能】 【思考力・判断力・表現力】 【学びに向かう力・人間性】 本時の具体的な目標 ・リサーチエスチョンをブラッシュアップして、調査内容を小篆することができる。		
時間 授業内容	5 限目	①先行研究（論文や文献等）や資料を調べ、情報をおおまかに収集する。その際、有益な事実・データが見つければ今後のためにメモを取っておく。 ②収集した情報をもとに、自分たちの問いについて、仮説が検証できそうか（遠すぎる問いになっていないか）、新規性が出せそうか（すでに明らかになっていることの調べ学習にならないか）、そもそも探究しがいがある問い化などを話し合う。 上記の①②をふまえ、自分たちなりの探究にふさわしい問いを再度考える。その際、問いの観点を変えたり、規模を変えたりしながら、より良い問いにする。	
評価方法	適切な問いを設定し、それに仮説を立てることができる。		
宿題指示	なし		

授業日	10/7(火)	2 学期授業回数	5 回目 / 全 9 回
本時 学習目標	主なターゲット【知識・技能】 【思考力・判断力・表現力】 【学びに向かう力・人間性】 本時の具体的な目標 ・書籍や論文を1つ以上選び、その内容を整理することができる。 （●塊のある知見は「本」で、新しい知識は「インターネット」で調べる。） （●信頼できる資料・データに基づいて探究し、参考文献を明確にして発表する。）		
時間 授業内容		・情報の収集 リサーチエスチョン・仮説に基づいて不ループのメンバー1人1人が情報を収集し、先行研究から得た事実。データを情報カードにまとめます。その際、情報カードに記名欄をつけ、グループの人数分の情報カードを作成する。	
評価方法	リサーチエスチョンに、適切な事実・データを調べられている		
宿題指示	自分の班のリサーチエスチョンに基づく情報カードを1枚以上作成		

授業日	10/23(木)	2 学期授業回数	6 回目 / 全 9 回
本時 学習目標	主なターゲット【知識・技能】 【思考力・判断力・表現力】 【学びに向かう力・人間性】 本時の具体的な目標 ・ 対立意見や異なる主張の論文・書籍を探し、その内容を整理することができる。		
時間 授業内容	5 限目 6 限目	・ 意味ある学びについて説明をする。 新たに情報が習得済みの概念につながったときに、意味ある学びが生じる。学習者の既存の概念が、新しい情報と結びつき、理解の土台となる。 ・ 収集した情報をグループで共有する（1人2つのデータ）。 ①各自で収集してきた情報を、情報カードを元に発表する。その際に要点を記入する。キーワード（キー概念（コンセプト））と論拠・理由付けも行う。 ②共通点や相違点等を意識しながら、集まった情報を「先行研究から得た事実・データ」のスライドにまとめる。場合によっては、リサーチクエスチョンの再考、さらなる文献調査を行う。 ③②からさらに深堀したいことを話し合う。 『対話型論証ですすめる探究ワーク』 p.120	
評価方法	調べた事実・データに対して、適切な対立意見を調べられている。		
宿題指示	対立する主張・異なる主張（スライド 37,38）を作成		

授業日	11/11(火)	2 学期授業回数	7 回目 / 全 9 回																																																								
本時 学習目標	主なターゲット【知識・技能】 【思考力・判断力・表現力】 【学びに向かう力・人間性】 本時の具体的な目標 ・ 問い（リサーチクエスチョン）に対して、調査で明らかにしたいことを整理できる。																																																										
時間 授業内容	・ 前回の授業において、先行研究から得た事実・データの再考をして、さらなる文献調査を行った。ブラッシュアップされた問いを明らかにするための調査の方法・対象・内容を決め「方法・対象・内容」のスライドにまとめる。 ・ 班ごとの研究計画書と調査一覧を決める。 ※最低調査対象は2つ以上																																																										
	<table border="1"> <tr> <td colspan="4">リサーチ・クエスチョン</td> </tr> <tr> <td colspan="4">先行研究・先行事例（概要）</td> </tr> <tr> <td rowspan="6">調査 1</td> <td>調査対象</td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td>調査目的</td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td>先方ご担当者名</td> <td>生徒担当者名</td> <td></td> </tr> <tr> <td>調査日時</td> <td>月 日（ ） 時 分～</td> <td>連絡先</td> <td></td> </tr> <tr> <td>調査方法</td> <td colspan="2">インタビュー（<input type="checkbox"/>対面/<input type="checkbox"/>Zoom）/ アンケート（<input type="checkbox"/>オンライン/<input type="checkbox"/>質問紙）</td> </tr> <tr> <td>事前連絡</td> <td colspan="2"><input type="checkbox"/>不要 / <input type="checkbox"/>必要 月 日（ ）</td> </tr> <tr> <td></td> <td>備考</td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td rowspan="6">調査 2</td> <td>調査対象</td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td>調査目的</td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td>先方ご担当者名</td> <td>生徒担当者名</td> <td></td> </tr> <tr> <td>調査日時</td> <td>月 日（ ） 時 分～</td> <td>連絡先</td> <td></td> </tr> <tr> <td>調査方法</td> <td colspan="2">インタビュー（<input type="checkbox"/>対面/<input type="checkbox"/>Zoom）/ アンケート（<input type="checkbox"/>オンライン/<input type="checkbox"/>質問紙）</td> </tr> <tr> <td>事前連絡</td> <td colspan="2"><input type="checkbox"/>不要 / <input type="checkbox"/>必要 月 日（ ）</td> </tr> <tr> <td></td> <td>備考</td> <td colspan="2"></td> </tr> </table>			リサーチ・クエスチョン				先行研究・先行事例（概要）				調査 1	調査対象			調査目的			先方ご担当者名	生徒担当者名		調査日時	月 日（ ） 時 分～	連絡先		調査方法	インタビュー（ <input type="checkbox"/> 対面/ <input type="checkbox"/> Zoom）/ アンケート（ <input type="checkbox"/> オンライン/ <input type="checkbox"/> 質問紙）		事前連絡	<input type="checkbox"/> 不要 / <input type="checkbox"/> 必要 月 日（ ）			備考			調査 2	調査対象			調査目的			先方ご担当者名	生徒担当者名		調査日時	月 日（ ） 時 分～	連絡先		調査方法	インタビュー（ <input type="checkbox"/> 対面/ <input type="checkbox"/> Zoom）/ アンケート（ <input type="checkbox"/> オンライン/ <input type="checkbox"/> 質問紙）		事前連絡	<input type="checkbox"/> 不要 / <input type="checkbox"/> 必要 月 日（ ）			備考		
リサーチ・クエスチョン																																																											
先行研究・先行事例（概要）																																																											
調査 1	調査対象																																																										
	調査目的																																																										
	先方ご担当者名	生徒担当者名																																																									
	調査日時	月 日（ ） 時 分～	連絡先																																																								
	調査方法	インタビュー（ <input type="checkbox"/> 対面/ <input type="checkbox"/> Zoom）/ アンケート（ <input type="checkbox"/> オンライン/ <input type="checkbox"/> 質問紙）																																																									
	事前連絡	<input type="checkbox"/> 不要 / <input type="checkbox"/> 必要 月 日（ ）																																																									
	備考																																																										
調査 2	調査対象																																																										
	調査目的																																																										
	先方ご担当者名	生徒担当者名																																																									
	調査日時	月 日（ ） 時 分～	連絡先																																																								
	調査方法	インタビュー（ <input type="checkbox"/> 対面/ <input type="checkbox"/> Zoom）/ アンケート（ <input type="checkbox"/> オンライン/ <input type="checkbox"/> 質問紙）																																																									
	事前連絡	<input type="checkbox"/> 不要 / <input type="checkbox"/> 必要 月 日（ ）																																																									
	備考																																																										

評価方法	問い（リサーチクエスト）に対して、適切な研究計画書と調査が設定されている。
宿題指示	研究計画書&調査一覧のスライド

授業日	11/18(火)	2 学期授業回数	8 回目 / 全 9 回																																																				
本時 学習目標	主なターゲット【知識・技能】 【思考力・判断力・表現力】 【学びに向かう力・人間性】 本時の具体的な目標 ・ 調査設計に基づき、調査内容を確定し、調査を依頼することができる。																																																						
時間 授業内容	5,6 限目	・ ①学術論文 or 文献（書籍）、②調査（アンケート or インタビュー）にもとづいて情報を収集する。RQ（リサーチクエスト）について、既に明らかになっていることを①で、未だ分かっていない事を、②で明らかにする。誰に、どんな方法（インタビュー or アンケート）で、どんな内容の調査をすればよいか考える。 ※「問い」と「調査内容」に整合性が取れているか注意する。 ・ 研究計画書の確定をする。（※2つ以上のアポイントを確実にとる。メールに関しては、送信まで必ず行う。）																																																					
		<table border="1"> <tr> <td>リサーチ・クエスト</td> <td colspan="3"></td> </tr> <tr> <td>先行研究・先行事例 (概要)</td> <td colspan="3"></td> </tr> <tr> <td rowspan="7">調査 1</td> <td>調査対象</td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td>調査目的</td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td>先方ご担当者名</td> <td>生徒担当者名</td> <td></td> </tr> <tr> <td>調査日時</td> <td>月 日() 時 分~</td> <td>連絡先</td> </tr> <tr> <td>調査方法</td> <td colspan="2">インタビュー(□対面/□Zoom)/ アンケート(□オンライン/□質問紙)</td> </tr> <tr> <td>事前連絡</td> <td colspan="2">□不要 / □必要 月 日()</td> </tr> <tr> <td>備考</td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td rowspan="7">調査 2</td> <td>調査対象</td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td>調査目的</td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td>先方ご担当者名</td> <td>生徒担当者名</td> <td></td> </tr> <tr> <td>調査日時</td> <td>月 日() 時 分~</td> <td>連絡先</td> </tr> <tr> <td>調査方法</td> <td colspan="2">インタビュー(□対面/□Zoom)/ アンケート(□オンライン/□質問紙)</td> </tr> <tr> <td>事前連絡</td> <td colspan="2">□不要 / □必要 月 日()</td> </tr> <tr> <td>備考</td> <td colspan="2"></td> </tr> </table>		リサーチ・クエスト				先行研究・先行事例 (概要)				調査 1	調査対象			調査目的			先方ご担当者名	生徒担当者名		調査日時	月 日() 時 分~	連絡先	調査方法	インタビュー(□対面/□Zoom)/ アンケート(□オンライン/□質問紙)		事前連絡	□不要 / □必要 月 日()		備考			調査 2	調査対象			調査目的			先方ご担当者名	生徒担当者名		調査日時	月 日() 時 分~	連絡先	調査方法	インタビュー(□対面/□Zoom)/ アンケート(□オンライン/□質問紙)		事前連絡	□不要 / □必要 月 日()		備考		
リサーチ・クエスト																																																							
先行研究・先行事例 (概要)																																																							
調査 1	調査対象																																																						
	調査目的																																																						
	先方ご担当者名	生徒担当者名																																																					
	調査日時	月 日() 時 分~	連絡先																																																				
	調査方法	インタビュー(□対面/□Zoom)/ アンケート(□オンライン/□質問紙)																																																					
	事前連絡	□不要 / □必要 月 日()																																																					
	備考																																																						
調査 2	調査対象																																																						
	調査目的																																																						
	先方ご担当者名	生徒担当者名																																																					
	調査日時	月 日() 時 分~	連絡先																																																				
	調査方法	インタビュー(□対面/□Zoom)/ アンケート(□オンライン/□質問紙)																																																					
	事前連絡	□不要 / □必要 月 日()																																																					
	備考																																																						
評価方法	問い（リサーチクエスト）に対して、適切な研究計画書と調査が設定されている。																																																						
宿題指示	研究計画書&調査一覧のスライド																																																						

授業日	11/25(火)	2 学期授業回数	9 回目 / 全 9 回
本時 学習目標	主なターゲット【知識・技能】 【思考力・判断力・表現力】 【学びに向かう力・人間性】 本時の具体的な目標 ・ フィールドスタディに向けて、調査内容を確定することができる。		
時間 授業内容	5,6 限	以下のスケジュールで探究を進められるようにする。 ①11/18 までに調査対象者にアポイントメントを取ること ※メールを出す前に必ず担当の先生のチェックを受けること。 ②調査の日程は、事前に担当の先生と相談する。 ●12/8(月)~18(木)の間に調査が終わるように計画する。 ③フィールドスタディ先の事前調査をさらに深め、調査内容（インタビュー項目 or アンケート項	

	<p>目)を確定させる。</p> <p>※事前に質問項目を教えてほしいと言われたら、メールアドレスを聞いておき、数日前に送ること。</p> <p>④1/13(火)までに探究スライド 36 まで完成させること。</p> <p>※完成していないグループは、1/13(火)の授業後に居残り</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20%; text-align: center;">リサーチ・クエスチョン</td> <td colspan="3"></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">先行研究・先行事例 (概要)</td> <td colspan="3"></td> </tr> <tr> <td rowspan="7" style="text-align: center; vertical-align: middle;">調査 1</td> <td>調査対象</td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td>調査目的</td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td>先方ご担当者名</td> <td>生徒担当者名</td> <td></td> </tr> <tr> <td>調査日時</td> <td>月 日() 時 分~</td> <td>連絡先</td> <td></td> </tr> <tr> <td>調査方法</td> <td colspan="2">インタビュー(口対面/Zoom)/ アンケート(オンライン/質問紙)</td> </tr> <tr> <td>事前連絡</td> <td colspan="2">□不要 / □必要 月 日()</td> </tr> <tr> <td>備考</td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td rowspan="7" style="text-align: center; vertical-align: middle;">調査 2</td> <td>調査対象</td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td>調査目的</td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td>先方ご担当者名</td> <td>生徒担当者名</td> <td></td> </tr> <tr> <td>調査日時</td> <td>月 日() 時 分~</td> <td>連絡先</td> <td></td> </tr> <tr> <td>調査方法</td> <td colspan="2">インタビュー(口対面/Zoom)/ アンケート(オンライン/質問紙)</td> </tr> <tr> <td>事前連絡</td> <td colspan="2">□不要 / □必要 月 日()</td> </tr> <tr> <td>備考</td> <td colspan="2"></td> </tr> </table>	リサーチ・クエスチョン				先行研究・先行事例 (概要)				調査 1	調査対象			調査目的			先方ご担当者名	生徒担当者名		調査日時	月 日() 時 分~	連絡先		調査方法	インタビュー(口対面/Zoom)/ アンケート(オンライン/質問紙)		事前連絡	□不要 / □必要 月 日()		備考			調査 2	調査対象			調査目的			先方ご担当者名	生徒担当者名		調査日時	月 日() 時 分~	連絡先		調査方法	インタビュー(口対面/Zoom)/ アンケート(オンライン/質問紙)		事前連絡	□不要 / □必要 月 日()		備考		
リサーチ・クエスチョン																																																							
先行研究・先行事例 (概要)																																																							
調査 1	調査対象																																																						
	調査目的																																																						
	先方ご担当者名	生徒担当者名																																																					
	調査日時	月 日() 時 分~	連絡先																																																				
	調査方法	インタビュー(口対面/Zoom)/ アンケート(オンライン/質問紙)																																																					
	事前連絡	□不要 / □必要 月 日()																																																					
	備考																																																						
調査 2	調査対象																																																						
	調査目的																																																						
	先方ご担当者名	生徒担当者名																																																					
	調査日時	月 日() 時 分~	連絡先																																																				
	調査方法	インタビュー(口対面/Zoom)/ アンケート(オンライン/質問紙)																																																					
	事前連絡	□不要 / □必要 月 日()																																																					
	備考																																																						
評価方法	問い(リサーチクエスチョン)に対して、適切な研究計画書と調査が設定されている。																																																						
宿題指示	研究計画書&調査一覧のスライド																																																						

<3 学期>

授業日	1/13(火)	3 学期授業回数	1 回目 / 全 6 回
本時 学習目標	<p>主なターゲット【知識・技能】 【思考力・判断力・表現力】 【学びに向かう力・人間性】</p> <p>本時の具体的な目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フィールドスタディで調査した情報を、論理的に整理することができる。 		
時間 授業内容	5,6 限	<p>●確認事項</p> <p>調査方法・対象・内容(スライド6)とそれに伴う情報カードに調査で得た事実・データがまとめられているかの確認を行う。</p> <p>●調査から得られた事実・データを「調査によって得た事実・データ」のスライドにまとめる。</p> <p>●事実・データを解釈し、主張に結び付ける土台となる論拠・理由付けを「論拠・理由付け」のスライドにまとめる。</p> <p>●仮説を主張に修正する。(事実・データと論拠・理由付けから言える具体的でより説得力のある主張を記入する。)</p> <p>※以下4スライドをまとめて、EXELとGoogle formに同内容を入力する。</p>	

<p>評価方法</p>	<p>ルーブリックによる評価</p> <p>観点①：リサーチエスチョン（問い）の明確さ・適切さ</p> <p>評価 到達度の目安</p> <p>5 探究の目的に合ったリサーチエスチョンが明確で、具体的かつ探究可能な問いになっている</p> <p>4 リサーチエスチョンは明確で、探究の方向性が概ね適切である</p> <p>3 リサーチエスチョンは示されているが、やや抽象的または焦点が不十分である</p> <p>2 リサーチエスチョンが不明確で、探究の目的とのつながりが弱い</p> <p>1 リサーチエスチョンが示されていない、または探究と無関係である</p> <p>評価 到達度の目安</p> <p>5 信頼性の高い事実データを複数使い、主張との関係を意識して効果的に活用している</p> <p>4 事実データを用いており、主張との関係も概ね説明できている</p> <p>3 事実データはあるが、量や信頼性、主張とのつながりが十分でない</p> <p>2 事実データが少なく、主観的な情報に偏っている</p> <p>1 事実データがほとんど示されていない</p> <p>観点③：調査方法の妥当性</p> <p>評価 到達度の目安</p> <p>5 リサーチエスチョンに適した調査方法を選び、その理由を明確に説明できている</p> <p>4 調査方法は概ね適切で、目的との関係も説明できている</p> <p>3 調査方法は示されているが、問いとの対応が十分でない</p> <p>2 調査方法が不適切、または説明が不十分である</p> <p>1 調査方法が示されていない</p> <p>観点④：論拠・理由づけに基づく主張の構成</p> <p>評価 到達度の目安</p> <p>5 事実データと論拠を基に、一貫性のある説得力の高い主張ができている</p> <p>4 論拠を示しながら主張しており、全体として筋が通っている</p> <p>3 主張はあるが、論拠や理由づけが十分でない</p> <p>2 主張と根拠のつながりが弱く、説明が不十分である</p> <p>1 主張が明確でない、または論拠が示されていない</p>	
<p>宿題指示</p>	<p>中間発表の振り返り</p>	

<p>授業日</p>	<p>1/27(火)</p>	<p>3 学期授業回数</p>	<p>3 回目 / 全6回</p>
<p>本時 学習目標</p>	<p>主なターゲット【知識・技能】 【思考力・判断力・表現力】 【学びに向かう力・人間性】</p> <hr/> <p>本時の具体的な目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 中間発表でのフィードバックを受け、対立意見・異なる意見を整理し、それに対して反駁することができる。 ・ 探究の成果を、対話型論証を意識してわかりやすくポスターにまとめることができる。 		
<p>時間 授業内容</p>	<p>5,6 限目</p>	<p>中間発表（前回の授業）で、もらった質問を確認しながらポスターを完成させる。PC を使用して、パワポを協同編集する。</p>	

評価方法	ポスターの内容で評価を行う。	
宿題指示	ポスターのパワポをまとめる。	

授業日	2/3(火)	3 学期授業回数	4 回目 / 全 6 回
本時 学習目標	主なターゲット【知識・技能】 【思考力・判断力・表現力】 【学びに向かう力・人間性】 本時の具体的な目標 ・これまでの調査を踏まえて、自分たちなりの結論・提言を導くことができる。 ・ポスター発表に向けて、探究の成果を分かりやすく伝えられるポスターを作成することができる。		
時間 授業内容	5,6 限	中間発表（前回の授業）で、もらった質問を確認しながらポスターを完成させる。PC を使用して、パワポを協同編集する。AI フィードバックを参考に内容を精査する。 	
評価方法	ポスターの内容で評価を行う。		
宿題指示	ポスターのパワポをまとめる。		

授業日	2/17(火)	3 学期授業回数	5 回目 / 全 6 回
本時 学習目標	主なターゲット【知識・技能】 【思考力・判断力・表現力】 【学びに向かう力・人間性】 本時の具体的な目標 ・これまでの成果をまとめて、対話型論証のモデルにのせて発表を行うことができる。		
時間 授業内容	5,6 限目	ピアティーチングを行った。代表班がポスターを使用して発表を行った。 ※以下のスライドを元に発表を行った。	

	<p>英語力向上にAIの活用は有効か？ 4班 関西学院高等部 2年 北原明真、小川真空、中嶋理、西島杏</p> <p>探究の動機と課題の設定 私たちは現在論理表現の授業で「DeepL」を使用している。それが英検の合格や英語力向上にほんとうに効果があるのか疑問に思ったため、「AIの教育への活用」の有効性について探究した。</p> <p>先行研究・先行事例 AIは、適切なプロンプト設計（春日(2023)）や機械翻訳・生成AIの活用によって英語学習における「話す・書く」活動の質を高め（自由(2024)）、文法や表現の改善などに効果を出している（木村(2024)）ことが先行研究で示されている。一方で、AIを通じて自律学習を促進しながら信頼性を確保した活用を行うことが重要であるとの指摘（山本(2025)）もある。</p> <p>方法 ①英語教育を専門としている神戸大学の石川准一先生にインタビュー ②英語を専門としている甲南大学の本田先生にインタビュー</p> <p>主張 英語力向上にAIの活用は有効である。なぜなら、AIは生徒一人ひとりのレベルや弱点に応じた学習を可能にし、フィードバックや復習を容易に提供し、英語を実際に使う機会を増やすことができると考えられる。また、AIは、一人ひとりの学習状況を把握でき、生徒に合った学習を提案することができるからである。</p> <p>対立する主張・異なる主張 英語力向上にAIの活用は有効でない。なぜならAIは人間ではないため、実際に英語を使う場面でのコミュニケーション力が育たず、好奇心や学習意欲を育まないからだ。また、英語力を向上させるのに有効なプロンプトを作成する能力がまだ育っておらず、結果的に人間が教えたほうが手間が少なく済む可能性が高くなるからだ。</p> <p>反駁 人とのコミュニケーション能力に関しては、ネット環境とスマホがあれば100%の理解がオンライン上でインプットからアウトプットまで可能である。AIはこれに代わり、会話できる環境が整った上で、AIと会話することで、これによってできるという。またプロンプト作成に関しては、これからはAIが学習した人間の課題解決の経験からヒントを得ることができ、プロンプトすらもAIに質問すればいいと思う。</p> <p>結果(事実・データ) ①AIを使った英会話練習は恐れず英語を使う姿勢を育て、日本人が感じやすい「別人と話す不安」を軽減する効果がある。特に「発音や文法」の面で、自分にとって必要な学習法を提案することができ、AIは英語学習の心理的ハードルを下げる役割を果たす（石川先生）。 ②一方で、AIに依存しすぎる恐れや学習意欲が低下する可能性があるため、人間教師の役割も依然として必要である。目的をもってAIと人間の役割分担を行い、毎日30〜40分継続して学習することが望ましい。（本田先生）</p> <p>考察(論拠・理由づけ) 生成AIを活用した英語学習でプロンプト設計次第で学習者一人ひとりに合わせた個別最適化が可能である。AIが学習パートナーとなり、英語力向上を助ける。AIはどのようなアプリを使えば自律学習を進めやすくなるか、AIに個人のプライバシーが蓄積されるなど、モラルや倫理的な課題もある。</p> <p>結論・提言/今後の課題 英語力向上に生成AIの活用は極めて有効である。ただし、それは単なるツールとしての利用ではなく、自身のレベルに合わせて「対話型パートナー」として主体的に活用した場合に限られる。現状のままただのようには有効と断言できず、今後、実験を行ってスピードアップにおける効果を確認したい。</p> <p>参考文献 ・木村修平(2024)「AI時代の英語教育を考えるー機械翻訳などを授業に導入してみよう」J-learning教育研究 ・田中洋也・山本修久(2025)「大学在英語学習者によるAI英語学習アプリの有効性認知ー課題生成機能・自律学習機能を中心として」 ・春日悠子(2023)「AI活用による英語学習者の自律学習促進」J-learning教育研究 ・石川准一(2024)「生成AIによる英語学習の可能性」関西学院大学高等部研究第15号</p>	<p>性的被害を減らすには日本の性教育はどのような教育をするべきなのか？ 2班 関西学院高等部 2年 島田航、西村碧晃、福葉佑樹、尾家杜悟</p> <p>探究の動機と課題の設定 周りがあまり取り組みそうのないこの題に興味を持ったから。世界的にも性に関するデータは少なく、謎が多いと考えたから。</p> <p>先行研究・先行事例 日本産婦人科学会HPによると、①性行為がある2人の妊娠の仕組みを知らない②避妊の知識がない③妊娠避妊の教養方知らない④中絶は21週6日までというところを知らない⑤自分の身体についての知識がない⑥中学生と知っている中学生が二極化している。</p> <p>方法 1)市川先生と対面で、関西学院中学部で実験に行われている教育内容や、20年前と今の性教育の違いについて聞いた。 2)性教育について講演している関口さんへ現在の日本の性教育の現状と何を改善していくべきかについて聞いた。</p> <p>主張 性被害を未然に防ぐ観点から、包括的性教育を早期段階で導入することは有効であり、教育現場では、包み隠さず教えるべきだ。</p> <p>結果(事実・データ) 現在の日本では、性に関して、学習指導要領で決められていることでも、教えているところは少ない。現状では、中学生でも性行為の避妊方法を知っている。</p> <p>対立する主張・異なる主張 性教育を包み隠さず教えることで性被害が増えるというのではない</p> <p>反駁 「包み隠さず教えること」は、性的な刺激を与えることではなく、子どもが「無防備な無知」から「賢明な自己防衛者」へと育てることになる。性教育をタブー視し続けることが、子どもたちから身を守るための知識を奪い、結果として性被害のリスクを高めているといえる。</p> <p>考察(論拠・理由づけ) 日本では性教育について制限され、避妊や性暴力の防止方法について十分に教えないことが多かった。性教育を包み隠さず教えることで、知識不足が生まれ、それが被害者になるリスクを高めるという。性教育は正しい知識によって被害を回避するための教育であり、早期から行うべきである。</p> <p>結論・提言/今後の課題 性暴力を減らすためには、日本でも早期段階から包括的性教育を導入するべきである。妊娠や避妊だけでなく同意や自己防衛について正しく学ぶ必要がある。</p> <p>参考文献 ・世界保健機関(WHO)地域事務局(WHO Regional Office for Europe) (2018) [Sexuality Education in the WHO European Region ・The Netherlands Federal Centre for Health Education (BZgA). ・内務省(2020年)「男女共同参画社会に関する調査」https://www.npa.go.jp/bouan/safety/kyo/system/pdf/4_syoshohekkyoku.pdf</p>
評価方法	ルーブリックに従って評価を行う。	
宿題指示	ポスター内容のブラッシュアップ	

授業日	2/24(火)	3 学期授業回数	6 回目 / 全 6 回																																																												
本時学習目標	<p>主なターゲット【知識・技能】 【思考力・判断力・表現力】 【学びに向かう力・人間性】</p> <p>本時の具体的な目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 探究の成果を他者にわかりやすく発表することができる。 																																																														
時間授業内容	<p>5・6 限</p> <p>1 枚のポスターの内容を見学者に対面で伝える。見学者は自分の興味のあるポスターを見学し、質問する。(説明：5〜7分、質疑応答：3〜5分)</p> <p>※留意点</p> <ol style="list-style-type: none"> 迅速な貼り付け・入れ替え 自分の発表でないときは、他の班ポスターをすべて見学して、評価用紙に記入する。 <p>ルーブリック(探究の評価用)</p> <table border="1" data-bbox="414 1411 1244 1960"> <thead> <tr> <th rowspan="2">観点</th> <th colspan="4">評価者</th> <th rowspan="2">評価</th> <th rowspan="2">評価理由</th> </tr> <tr> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> <th>0</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1 課題の設定 リサーチクエスチョンの設定</td> <td>日常生活や社会に目を向け、探究するうえで適切な問いのリサーチクエスチョンを設定している。そのリサーチクエスチョンを設定した動機を述べている。</td> <td>日常生活や社会に目を向け、リサーチクエスチョンを設定している。また、そのリサーチクエスチョンを設定した動機を述べている。</td> <td>日常生活や社会に目を向け、リサーチクエスチョンを設定している。また、そのリサーチクエスチョンを設定した動機を述べている。</td> <td>日常生活や社会に目を向け、リサーチクエスチョンを設定していない。あるいは、そのリサーチクエスチョンを設定した動機を述べていない。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2 情報の収集 事実・データの収集</td> <td>リサーチクエスチョンに対して必要な情報(事実・データ)を収集している。その収集した動機を述べている。</td> <td>リサーチクエスチョンに対して必要な情報(事実・データ)を収集している。その収集した動機を述べている。</td> <td>リサーチクエスチョンに対して必要な情報(事実・データ)を収集している。その収集した動機を述べている。</td> <td>情報(事実・データ)を全く収集していない。あるいは、情報の収集が不十分である。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3-1 整理・分析① 論拠の明確化</td> <td>自分の主張と対立する主張や異なる主張(対立点)の明確化を行っている。</td> <td>自分の主張と対立する主張や異なる主張(対立点)の明確化を行っている。</td> <td>自分の主張と対立する主張や異なる主張(対立点)の明確化を行っている。</td> <td>自分の主張と対立する主張や異なる主張(対立点)の明確化を行っていない。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3-2 整理・分析② 主要な主張・異なる主張とその反駁</td> <td>自分の主張と対立する主張や異なる主張(対立点)の明確化を行っている。また、反駁(対立点の明確化)の内容が不連続的でも構わない。自分の主張と対立する主張の関係を整理している。</td> <td>自分の主張と対立する主張や異なる主張(対立点)の明確化を行っている。また、反駁(対立点の明確化)の内容が不連続的でも構わない。自分の主張と対立する主張の関係を整理している。</td> <td>自分の主張と対立する主張や異なる主張(対立点)の明確化を行っている。また、反駁(対立点の明確化)の内容が不連続的でも構わない。自分の主張と対立する主張の関係を整理している。</td> <td>自分の主張と対立する主張や異なる主張(対立点)の明確化を行っていない。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4 まとめ 結論</td> <td>探究したリサーチクエスチョンに対して、自分の主張と対立する主張を整理し、結論を述べている。</td> <td>探究したリサーチクエスチョンに対して、自分の主張と対立する主張を整理し、結論を述べている。</td> <td>探究したリサーチクエスチョンに対して、自分の主張と対立する主張を整理し、結論を述べている。</td> <td>探究したリサーチクエスチョンに対して結論を全く述べていない。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5 表現 (プレゼンテーション)</td> <td>口頭(アイコンタクト)が適切で、話し方が明確である。 研究内容に基づいて、質問に対して明確かつ的確な回答ができています。 <以下の条件を満たす場合は2点、その条件を満たす場合は3点、1つの条件を満たす場合は1点、以下の条件を満たさない場合は0点と判定する。></td> <td>口頭(アイコンタクト)が適切で、話し方が明確である。 研究内容に基づいて、質問に対して明確かつ的確な回答ができています。 <以下の条件を満たす場合は2点、その条件を満たす場合は3点、1つの条件を満たす場合は1点、以下の条件を満たさない場合は0点と判定する。></td> <td>口頭(アイコンタクト)が適切で、話し方が明確である。 研究内容に基づいて、質問に対して明確かつ的確な回答ができています。 <以下の条件を満たす場合は2点、その条件を満たす場合は3点、1つの条件を満たす場合は1点、以下の条件を満たさない場合は0点と判定する。></td> <td>口頭(アイコンタクト)が適切で、話し方が明確である。 研究内容に基づいて、質問に対して明確かつ的確な回答ができています。 <以下の条件を満たす場合は2点、その条件を満たす場合は3点、1つの条件を満たす場合は1点、以下の条件を満たさない場合は0点と判定する。></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>6 その他 特別加点項目(最大3点)</td> <td colspan="4"> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> </td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			観点	評価者				評価	評価理由	3	2	1	0	1 課題の設定 リサーチクエスチョンの設定	日常生活や社会に目を向け、探究するうえで適切な問いのリサーチクエスチョンを設定している。そのリサーチクエスチョンを設定した動機を述べている。	日常生活や社会に目を向け、リサーチクエスチョンを設定している。また、そのリサーチクエスチョンを設定した動機を述べている。	日常生活や社会に目を向け、リサーチクエスチョンを設定している。また、そのリサーチクエスチョンを設定した動機を述べている。	日常生活や社会に目を向け、リサーチクエスチョンを設定していない。あるいは、そのリサーチクエスチョンを設定した動機を述べていない。			2 情報の収集 事実・データの収集	リサーチクエスチョンに対して必要な情報(事実・データ)を収集している。その収集した動機を述べている。	リサーチクエスチョンに対して必要な情報(事実・データ)を収集している。その収集した動機を述べている。	リサーチクエスチョンに対して必要な情報(事実・データ)を収集している。その収集した動機を述べている。	情報(事実・データ)を全く収集していない。あるいは、情報の収集が不十分である。			3-1 整理・分析① 論拠の明確化	自分の主張と対立する主張や異なる主張(対立点)の明確化を行っている。	自分の主張と対立する主張や異なる主張(対立点)の明確化を行っている。	自分の主張と対立する主張や異なる主張(対立点)の明確化を行っている。	自分の主張と対立する主張や異なる主張(対立点)の明確化を行っていない。			3-2 整理・分析② 主要な主張・異なる主張とその反駁	自分の主張と対立する主張や異なる主張(対立点)の明確化を行っている。また、反駁(対立点の明確化)の内容が不連続的でも構わない。自分の主張と対立する主張の関係を整理している。	自分の主張と対立する主張や異なる主張(対立点)の明確化を行っている。また、反駁(対立点の明確化)の内容が不連続的でも構わない。自分の主張と対立する主張の関係を整理している。	自分の主張と対立する主張や異なる主張(対立点)の明確化を行っている。また、反駁(対立点の明確化)の内容が不連続的でも構わない。自分の主張と対立する主張の関係を整理している。	自分の主張と対立する主張や異なる主張(対立点)の明確化を行っていない。			4 まとめ 結論	探究したリサーチクエスチョンに対して、自分の主張と対立する主張を整理し、結論を述べている。	探究したリサーチクエスチョンに対して、自分の主張と対立する主張を整理し、結論を述べている。	探究したリサーチクエスチョンに対して、自分の主張と対立する主張を整理し、結論を述べている。	探究したリサーチクエスチョンに対して結論を全く述べていない。			5 表現 (プレゼンテーション)	口頭(アイコンタクト)が適切で、話し方が明確である。 研究内容に基づいて、質問に対して明確かつ的確な回答ができています。 <以下の条件を満たす場合は2点、その条件を満たす場合は3点、1つの条件を満たす場合は1点、以下の条件を満たさない場合は0点と判定する。>	口頭(アイコンタクト)が適切で、話し方が明確である。 研究内容に基づいて、質問に対して明確かつ的確な回答ができています。 <以下の条件を満たす場合は2点、その条件を満たす場合は3点、1つの条件を満たす場合は1点、以下の条件を満たさない場合は0点と判定する。>	口頭(アイコンタクト)が適切で、話し方が明確である。 研究内容に基づいて、質問に対して明確かつ的確な回答ができています。 <以下の条件を満たす場合は2点、その条件を満たす場合は3点、1つの条件を満たす場合は1点、以下の条件を満たさない場合は0点と判定する。>	口頭(アイコンタクト)が適切で、話し方が明確である。 研究内容に基づいて、質問に対して明確かつ的確な回答ができています。 <以下の条件を満たす場合は2点、その条件を満たす場合は3点、1つの条件を満たす場合は1点、以下の条件を満たさない場合は0点と判定する。>			6 その他 特別加点項目(最大3点)	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>					
観点	評価者				評価	評価理由																																																									
	3	2	1	0																																																											
1 課題の設定 リサーチクエスチョンの設定	日常生活や社会に目を向け、探究するうえで適切な問いのリサーチクエスチョンを設定している。そのリサーチクエスチョンを設定した動機を述べている。	日常生活や社会に目を向け、リサーチクエスチョンを設定している。また、そのリサーチクエスチョンを設定した動機を述べている。	日常生活や社会に目を向け、リサーチクエスチョンを設定している。また、そのリサーチクエスチョンを設定した動機を述べている。	日常生活や社会に目を向け、リサーチクエスチョンを設定していない。あるいは、そのリサーチクエスチョンを設定した動機を述べていない。																																																											
2 情報の収集 事実・データの収集	リサーチクエスチョンに対して必要な情報(事実・データ)を収集している。その収集した動機を述べている。	リサーチクエスチョンに対して必要な情報(事実・データ)を収集している。その収集した動機を述べている。	リサーチクエスチョンに対して必要な情報(事実・データ)を収集している。その収集した動機を述べている。	情報(事実・データ)を全く収集していない。あるいは、情報の収集が不十分である。																																																											
3-1 整理・分析① 論拠の明確化	自分の主張と対立する主張や異なる主張(対立点)の明確化を行っている。	自分の主張と対立する主張や異なる主張(対立点)の明確化を行っている。	自分の主張と対立する主張や異なる主張(対立点)の明確化を行っている。	自分の主張と対立する主張や異なる主張(対立点)の明確化を行っていない。																																																											
3-2 整理・分析② 主要な主張・異なる主張とその反駁	自分の主張と対立する主張や異なる主張(対立点)の明確化を行っている。また、反駁(対立点の明確化)の内容が不連続的でも構わない。自分の主張と対立する主張の関係を整理している。	自分の主張と対立する主張や異なる主張(対立点)の明確化を行っている。また、反駁(対立点の明確化)の内容が不連続的でも構わない。自分の主張と対立する主張の関係を整理している。	自分の主張と対立する主張や異なる主張(対立点)の明確化を行っている。また、反駁(対立点の明確化)の内容が不連続的でも構わない。自分の主張と対立する主張の関係を整理している。	自分の主張と対立する主張や異なる主張(対立点)の明確化を行っていない。																																																											
4 まとめ 結論	探究したリサーチクエスチョンに対して、自分の主張と対立する主張を整理し、結論を述べている。	探究したリサーチクエスチョンに対して、自分の主張と対立する主張を整理し、結論を述べている。	探究したリサーチクエスチョンに対して、自分の主張と対立する主張を整理し、結論を述べている。	探究したリサーチクエスチョンに対して結論を全く述べていない。																																																											
5 表現 (プレゼンテーション)	口頭(アイコンタクト)が適切で、話し方が明確である。 研究内容に基づいて、質問に対して明確かつ的確な回答ができています。 <以下の条件を満たす場合は2点、その条件を満たす場合は3点、1つの条件を満たす場合は1点、以下の条件を満たさない場合は0点と判定する。>	口頭(アイコンタクト)が適切で、話し方が明確である。 研究内容に基づいて、質問に対して明確かつ的確な回答ができています。 <以下の条件を満たす場合は2点、その条件を満たす場合は3点、1つの条件を満たす場合は1点、以下の条件を満たさない場合は0点と判定する。>	口頭(アイコンタクト)が適切で、話し方が明確である。 研究内容に基づいて、質問に対して明確かつ的確な回答ができています。 <以下の条件を満たす場合は2点、その条件を満たす場合は3点、1つの条件を満たす場合は1点、以下の条件を満たさない場合は0点と判定する。>	口頭(アイコンタクト)が適切で、話し方が明確である。 研究内容に基づいて、質問に対して明確かつ的確な回答ができています。 <以下の条件を満たす場合は2点、その条件を満たす場合は3点、1つの条件を満たす場合は1点、以下の条件を満たさない場合は0点と判定する。>																																																											
6 その他 特別加点項目(最大3点)	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>																																																														
評価方法	評価シート、発表内容																																																														
宿題指示																																																															